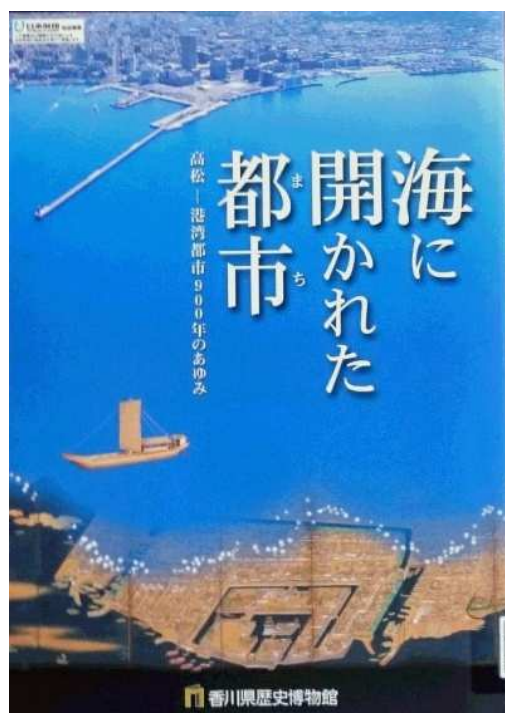


## 海に開かれた都市 （高松—港湾都市 900 年のあゆみ）



古来より瀬戸内海は物流の大動脈として、数え切れないほどの人やモノが行き交っていました。海岸に設けられた港は、行き交う人やモノを陸路へとつなぐ重要な接点として機能してきました。

本誌は、平成 19 年 10 月から 11 月にかけて香川県歴史博物館で開催された特別展「海に開かれた都市 ～高松—港湾都市 900 年のあゆみ～」について記録したものです。

この展覧会では、瀬戸内海の港の中で、讃岐国の高松、そしてその前身である野原に着目しています。志度、宇多津、仁尾、観音寺など、古くから栄えた讃岐の港における地形や寺院や商業、諸職などと港の展開の関係をさぐり、そこに高松における近年の発掘調査や文献調査の結果を加えることで、野原とはいったいどのような港であり、港町であったのか、にせまっています。野原、高松と続く港と都市の歴史は、明治時代以降もかたちをかえながらも続き、四国の玄関口高松の歴史へとつながっていきます。

900 年前の中世の時代から現代まで続く「海に開かれた都市」高松の歴史を、みてみませんか。

（平成 19 年 10 月 香川県歴史博物館）

(7101165160)